

The patterns of acceptance, mindfulness, and values for Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: a web-based survey

日本人2型糖尿病患者における
アクセプタンス・マインドフルネス・価値の行動様式：
オンライン調査の結果

Junichi Saito^{1,2} & Hiroaki Kumano^{2,3}

¹ Department of Psychiatry, Hiroshima University Hospital

² Comprehensive Research Organization, Waseda University

³ Faculty of Human Science, Waseda University

第64回 日本心身医学会
総会ならびに学術講演
COI 開示

筆頭発表者名 齋藤 順一

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業等はありません。

背景

- ▶ 2型糖尿病患者81名を対象として、7時間の患者教育のみを受けるグループと、同様の患者教育を4時間とアクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）を3時間受けるグループにランダムに振り分けて、その効果を検討（Gregg et al., 2007）
- ▶ ACTでは、慢性疾患において治療に伴う不快な思考や感情は不可避であるため、それらの影響力を減じながら、生き生きとした生活を過ごすことを目指す
- ▶ ACT群においてのみ、血糖コントロール値（HbA1c）が有意に改善しており、HbA1cがターゲット域（<7%）に入っている人数が多い

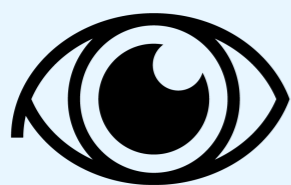
ACTのどのような構成要素が効果的であるのか明らかにすることで、
実臨床に即した効率的な介入方法を提案できる可能性がある

本研究の目的と方法



不快な思考や感情を
避けないで受け入れる

アクセプタンス (測定指標: AADQ; Saito et al., 2018)



俯瞰的な視点から
思考や感情を観察

マインドフルネス (測定指標: MAAS; 藤野他, 2016)



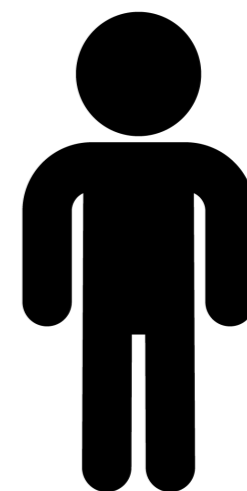
生きたい“生き方”に
向かって行動する

価値 (測定指標: VCQD; 齋藤, 2017を改編)

心理的柔軟性
(ACTの構成要素)

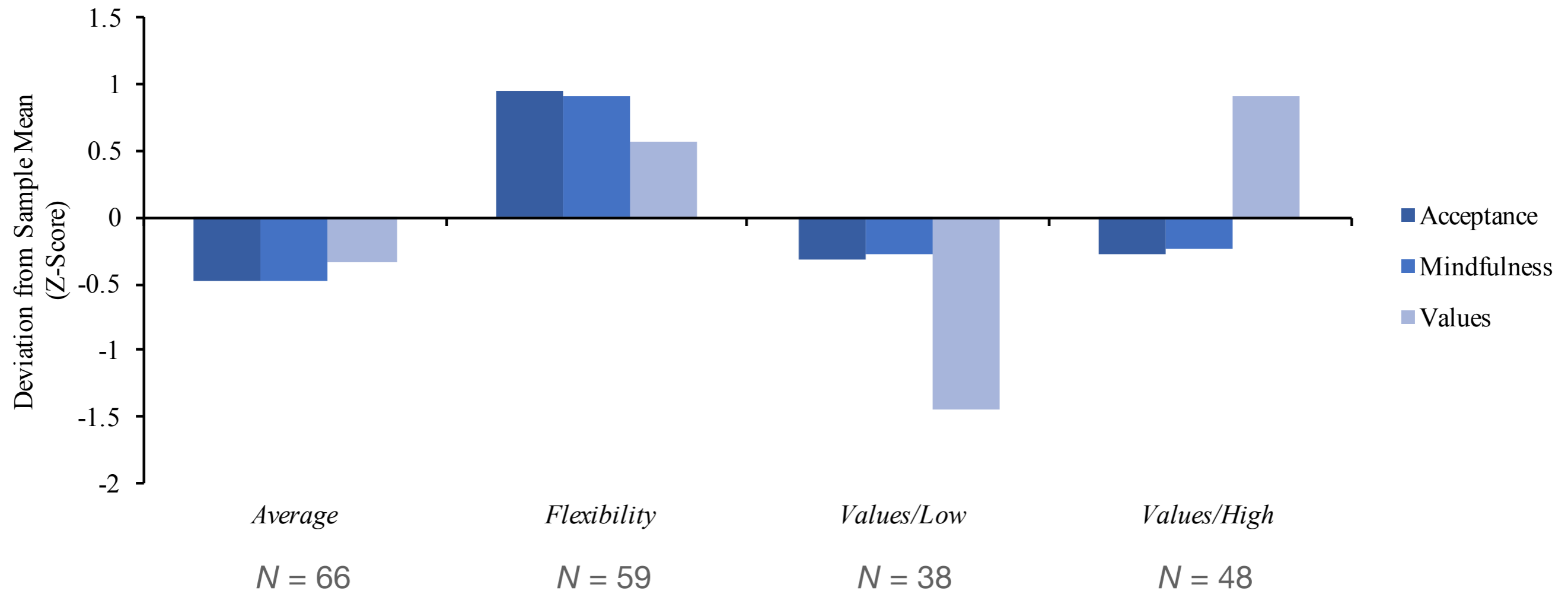
オンライン調査を行うことで、
心理的柔軟性の保持パターンと
糖尿病指標との関連を検討する

日本人2型糖尿病患者



クラスタ分析 (改良k-means)

$N = 211$ (女性32名、年齢 58.84 ± 10.25 、罹患期間 10.62 ± 8.41 年、治療中断・未治療36名、合併症30名)



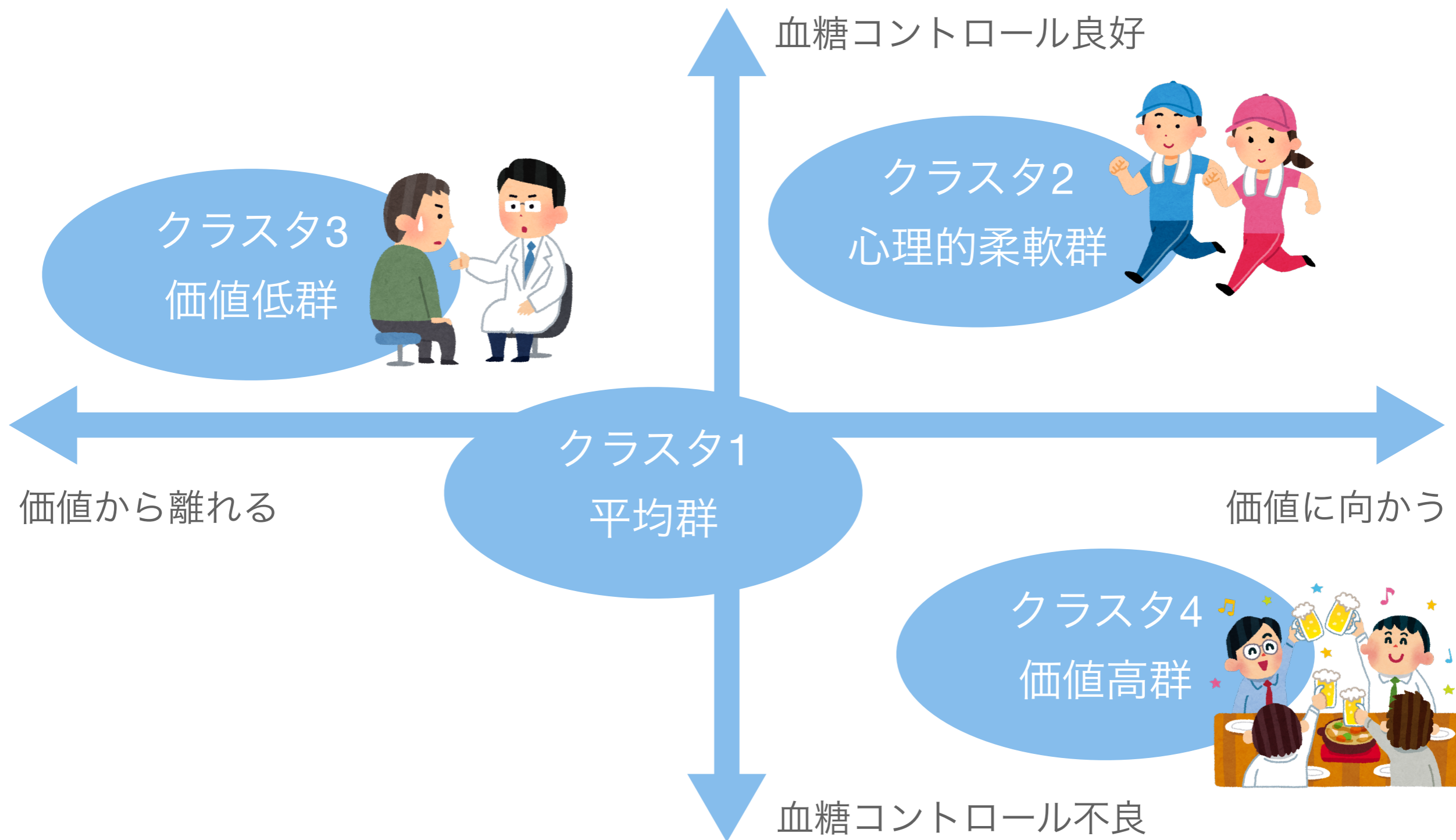
共分散分析 (年齢、性別、罹患期間、合併症、治療状況)

	クラスタ1 Average (N=66)	クラスタ2 Flexibility (N=59)	クラスタ3 Values / low (N=38)	クラスタ4 Values / high (N=48)	p値	多重比較 (Holm法)
SDSCA 食事管理	21.20 (0.71)	26.14 (0.78)	19.32 (1.01)	24.18 (0.87)	0.55	-
SDSCA 運動	7.39 (0.48)	8.37 (0.51)	5.84 (0.68)	8.30 (0.58)	0.23	-
PAID 糖尿病苦痛	47.28 (1.61)	35.56 (1.73)	46.56 (2.28)	44.32 (1.95)	0.09	1, 3, 4 > 2
CES-D 抑うつ	17.73 (0.92)	8.86 (0.98)	22.82 (1.22)	13.29 (1.08)	0.01	3, 1, 4 > 2
HbA1c 血糖値指標	6.84 (0.10)	6.50 (0.10)	6.64 (0.14)	7.10 (0.12)	0.05	4 > 2

「価値」のみが高い集団（クラスタ4）は最もHbA1cが不良

「価値」のみが低い集団（クラスタ3）はHbA1cは良好だが抑うつが強い

各クラスタの特徴



考察

▶ 心理的柔軟性と糖尿病指標の関連

生活の質を高めながら、糖尿病治療を進めていくためには、心理的柔軟性を高めることが有効である可能性がある

「価値」のみが高い患者は、比較的満足感の高い生活であるが、血糖コントロールが難しく、糖尿病治療の負担感が強い可能性がある

▶ セルフケア行動の測定

本研究では、セルフケア行動とHbA1cとの間に関連が示されなかった ($r = -.11$)
先行研究でも、SDSCA（セルフケア行動の質問紙）とHbA1cとの関連は強くない

Ecological Momentary Assessment（EMA; Shiffman et al., 2008）を用いて、質問紙データのみならず、日常生活下データから検討していく必要がある

結後

- ▶ 本研究は、日本人2型糖尿病患者を対象として、オンライン調査を行い、心理的柔軟性の保持パターンと糖尿病指標との関連を検討することが目的
- ▶ ACTでは、「価値」のプロセスが強調されているが、糖尿病治療を進めていくうえで、それのみでは不十分である
- ▶ 生活の質を担保しながら糖尿病治療を進めていくためには、「アクセプタンス」と「マインドフルネス」のプロセスが不可欠である
- ▶ 今後は、より幅広い属性の患者を含めて、検討していく必要がある

ACTが目指すべき糖尿病治療

